

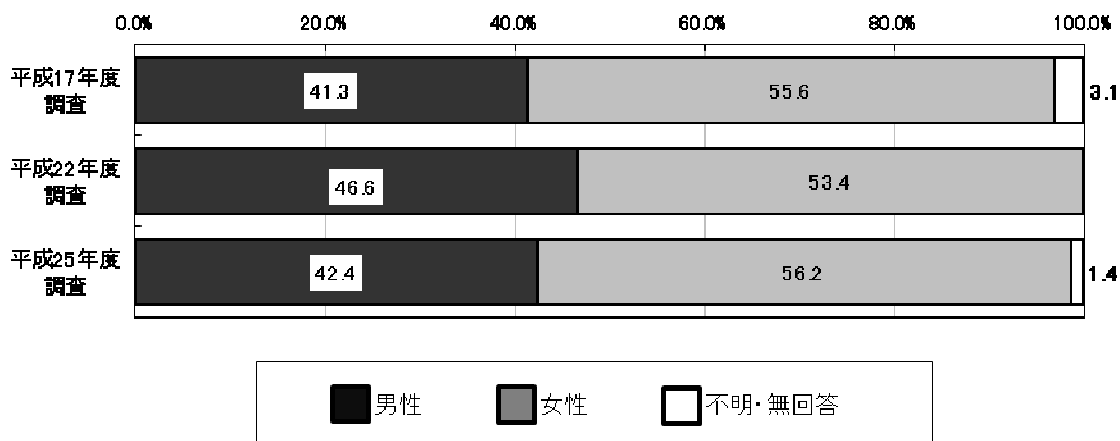
**尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査
経年比較**

**平成 26 年 9 月
尾鷲市**

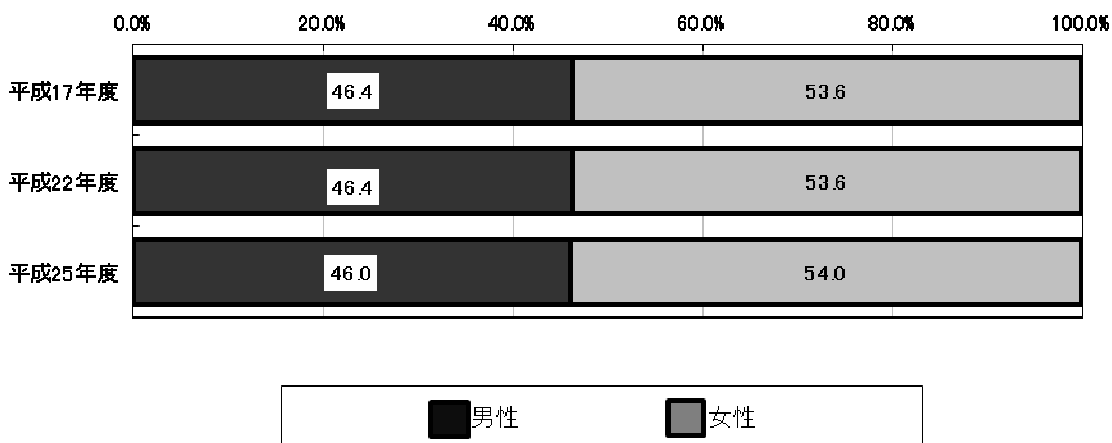
1. 回答者の属性

(1) 性別

回答者の男女の割合は、ほぼ同程度で推移し、各調査時の住民基本台帳上の割合とほぼ同じになっています。



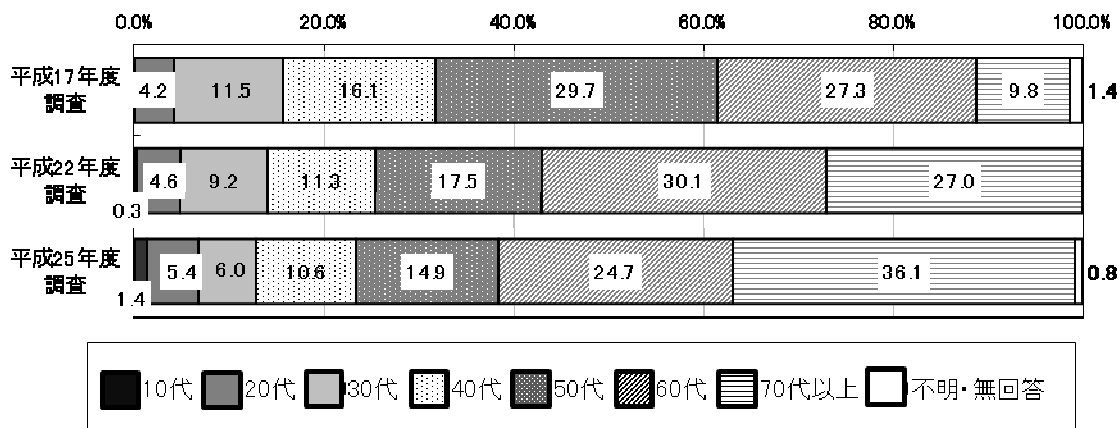
(参考) : 住民基本台帳 各年度調査時



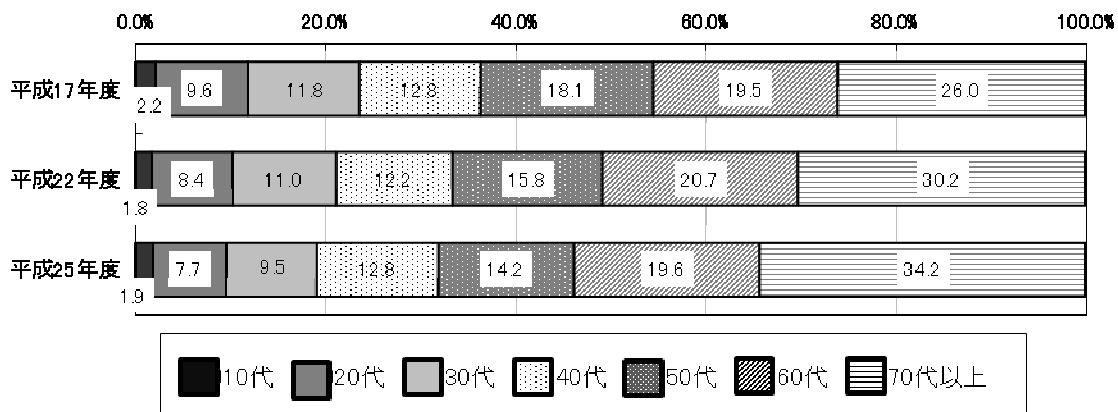
※調査対象である、18歳以上の人口の男女別構成比

(2) 年代

平成17年度調査から、回答者のうち「70代以上」の割合が増加を続けており、「30代」「40代」「50代」が減少し続けています。その結果、平成22年度調査以降は、回答者の半数以上を60代以上の高齢層が占めています。



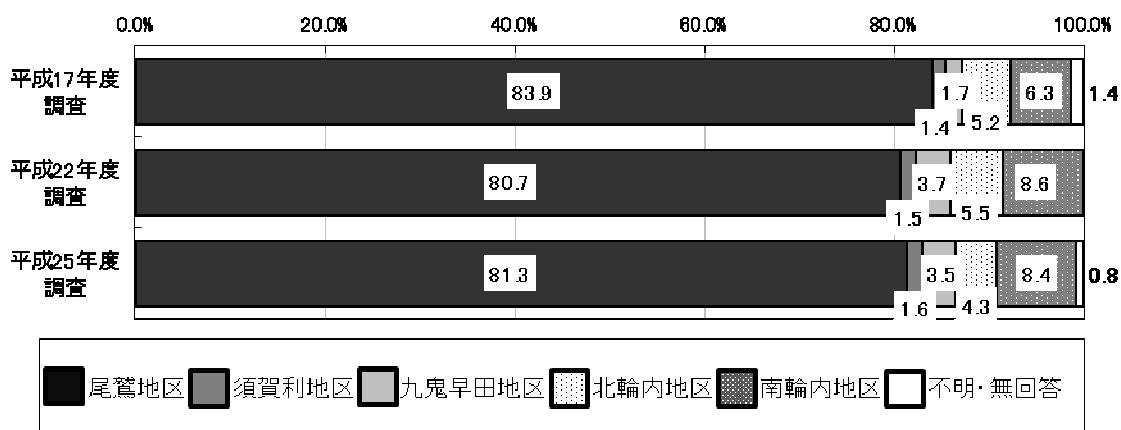
(参考)：住民基本台帳 各年調査時



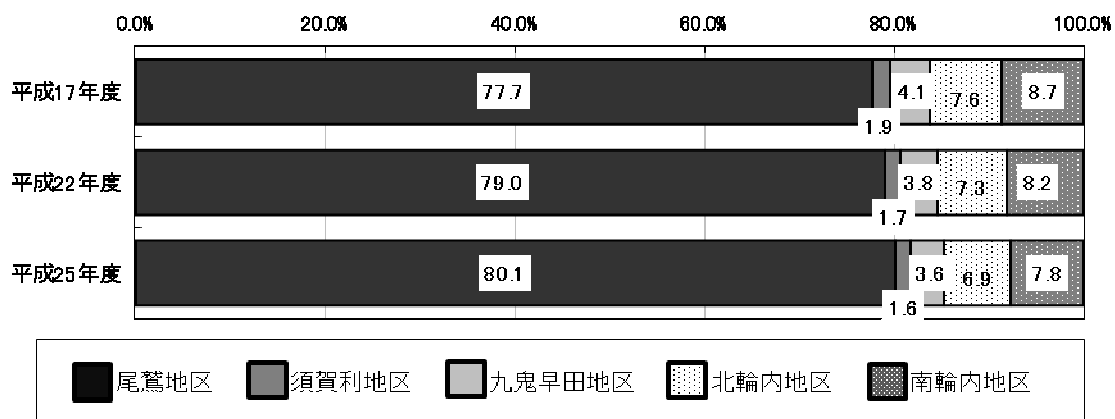
※調査対象である、18歳以上の人口の年齢別構成比。10代は18、19歳のみ。

(3) 居住地区

回答者の居住地区の割合は、調査年度によってそれほど大きな差異はありませんが、住民基本台帳上の割合と比べると、「尾鷲地区」がやや多く、「北輪内地区」がやや少ない傾向が見られます。



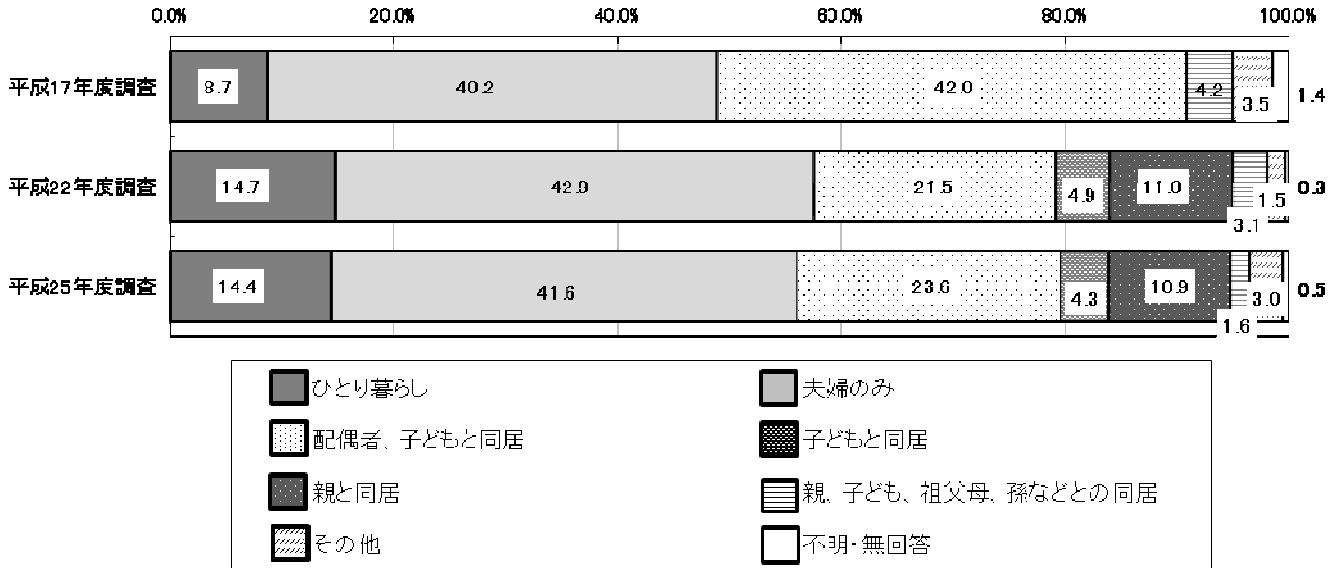
(参考) : 住民基本台帳 各年調査時



※調査対象である、18歳以上の人口の居住地区別構成比

(4) 世帯状況

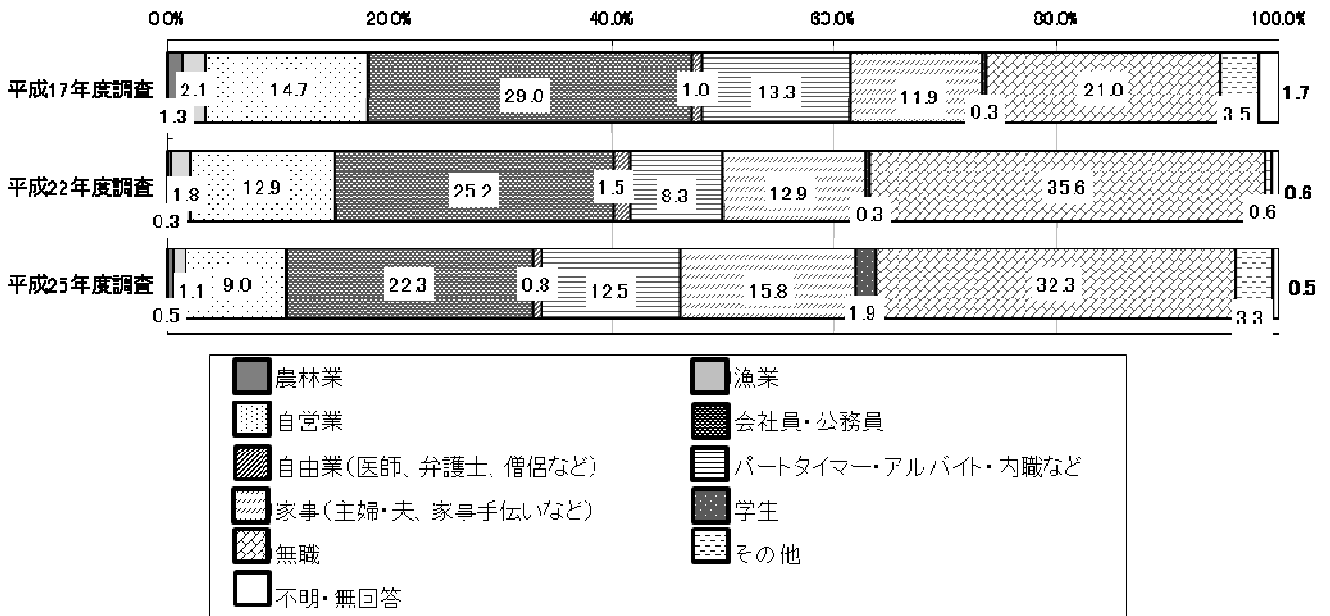
平成17年度調査に比べ、「ひとり暮らし」や「夫婦のみ」の世帯の割合が増加しており、高齢化による影響と推測されます。



※平成17年度調査の42.0%は、平成22年度調査以降の「配偶者、子どもと同居」「子どもと同居」「親と同居」の合計と同じ（平成17年度調査の選択肢は「2世代（親子）」）

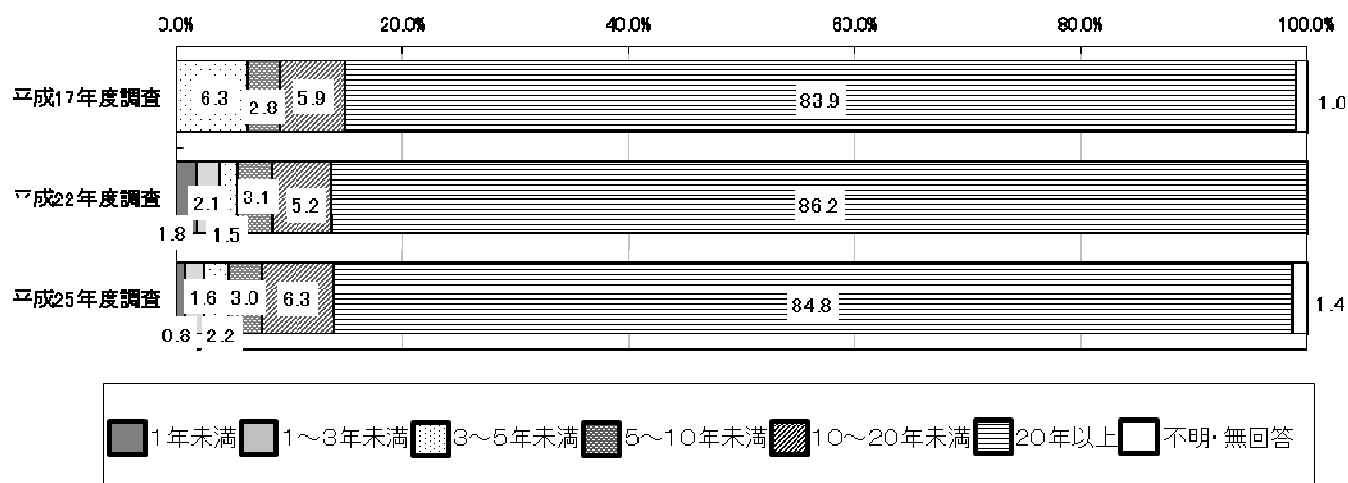
(5) 職業

平成17年度調査に比べ、回答者の高齢化にともない、「無職」の割合が増加しています。



(6) 居住年数

(5) 職業と同様に、回答者の高齢化にともなって、平成 17 年度調査に比べ「20 年以上」の割合がやや増加傾向にあります。

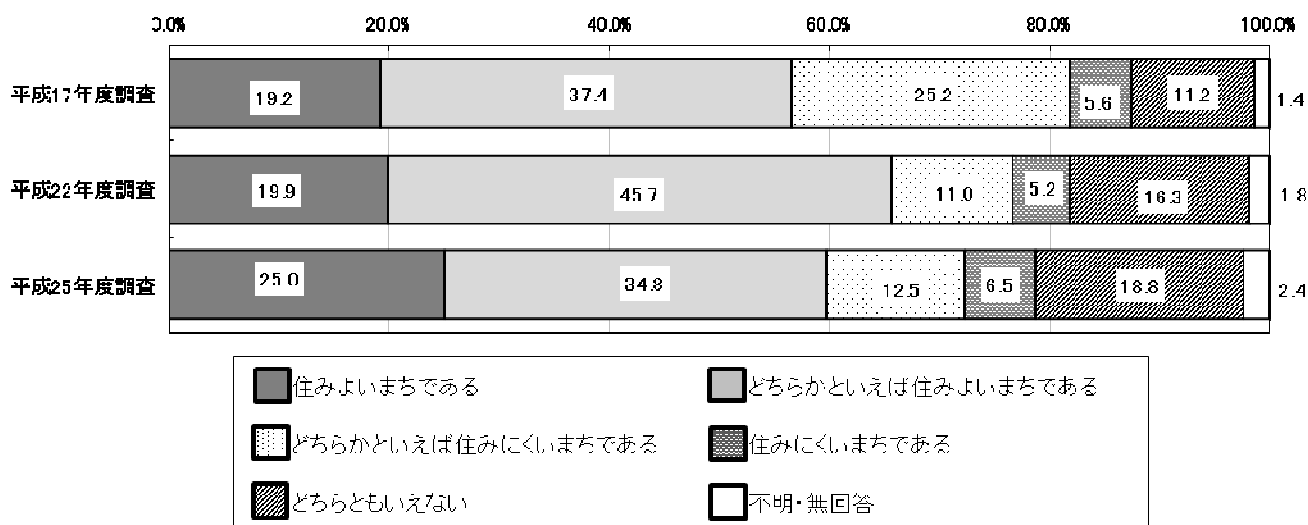


※平成 17 年度調査の 6.3%は、平成 22 年度調査以降の「1 年未満」「1～3 年未満」「3～5 年未満」の合計と同じ（平成 17 年度調査の選択肢は「5 年未満」）

2. 尾鷲市に対する評価

(1) 尾鷲市は住みよいまちか

平成 22 年度調査では、「どちらかといえば住みにくいまちである」の割合が減少し「どちらかといえば住みよいまちである」の割合が増加、平成 25 年度調査では「どちらかといえば住みよいまちである」の割合が減少し、「住みよいまちである」の割合が増加していることから、住みよいと認識される方が年々増えていることが見受けられます。



(2) 尾鷲市に住み続けたいか

平成 17 年度調査に比べ、「ずっと住み続けたい」の割合が増加しており、「いずれは市外に引っ越したい」の割合も減少していることから、定住意向の高まりが見受けられます。



(3) 不安に感じていること（上位5項目比較）

平成 25 年度調査では、東日本大震災や各地の豪雨災害等の発生を受けて「地震や豪雨、火災などの災害に対する不安」が1位になったと推測されます。

平成 17 年度調査		平成 22 年度調査		
	項目	割合	項目	割合
1位	老後の不安	49.0%	老後の不安	51.8%
2位	地震や津波、火災などの災害に対する不安	41.3%	健康面での不安	36.1%
3位	健康面での不安	30.8%	地震や豪雨、火災などの災害に対する不安	31.8%
4位	経済的な不安	29.4%	経済的な不安	25.8%
5位	子どもの進学・就職に関する不安	9.1%	子どもの進学・就職に対する不安	15.6%
平成 25 年度調査				
	項目	割合		
1位	地震や豪雨、火災などの災害に対する不安	49.7%		
2位	老後の不安	45.4%		
3位	健康面での不安	28.5%		
4位	経済的な不安	17.9%		
5位	特に不安はない	9.2%		

(4) 尾鷲市の将来イメージ（上位5項目比較）

こちら「不安に感じていること」と同様に、平成25年度調査では「地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち」が6位以下から2位に上昇し、防災への意識が高まっていることが見受けられます。

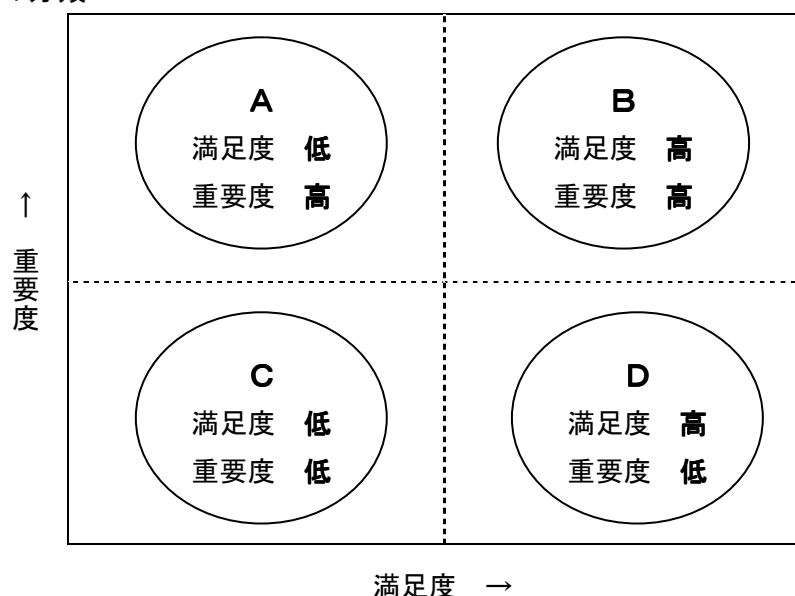
平成17年度調査		平成22年度調査	
項目	割合	項目	割合
1位	保健・医療施設がよく整備されたまち 50.7%	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち 59.5%	
2位	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち 48.3%	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち 38.7%	
3位	海や山、川などに自然が残るまち 35.3%	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち 30.1%	
4位	道路や交通の便がよいまち 26.6%	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち 27.6%	
5位	公害、環境破壊が少なく、安心して生活できるまち 25.5%	将来にわたって健全な財政運営を行うまち 24.5%	
平成25年度調査		平成17年度調査	
項目	割合		
1位	保健・医療・福祉施設が充実し、安心して元気に暮らせるまち 50.0%		
2位	地震や風水害への不安が少なく、安心して生活できるまち 39.1%		
3位	働きがいのある職場が多く、活気のあるまち 34.0%		
4位	子どもからお年寄りまで安心して元気に暮らせるまち 22.0%		
5位	海や山、川などの自然がたくさん残っているまち 20.7%		

3. まちづくりの満足度・重要度経年比較

まちづくりの満足度、重要度については、各年度の調査で設問項目等が異なっているため、単純比較はできません。

しかし、選択肢は異なっているものの、回答結果を5点満点で計算する方法等は同じ処理をしているため、経年比較は、それぞれの年度の調査の項目間の相対的な評価同士を比較して行います。

(参考) 結果の分類



領域	説明
A	重要度が高いにも関わらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
B	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
C	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
D	満足度が高く、重要度が低いため、今後、場合によっては満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

※上記の領域については、あくまで設問項目の中の相対的な位置関係を示すために便宜上設定した分類であるため、A～Dは絶対的な区分ではありません。

(参考) 平均点の変化

	満足度	重要度	備考
平成 17 年度調査	2.4	4.2	いずれも「最低点」は1点、「最高点」は5点
平成 22 年度調査	2.67	4.03	
平成 25 年度調査	2.79	4.02	

(1) Aの項目（満足度が低く、重要度が高い）

平成 25 年度調査では、防災関連の項目のほか、「市民参加によるまちづくり」や「公共交通の確保」、「広域・外部連携の推進」などがAの領域に新たに加わっています。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
A	<ul style="list-style-type: none"> ○海の資源の十分な活用 ○林業の活気 ○山の資源の十分な活用 ○商工業の活気 ○観光の場としての魅力・集客交流施設の充実 ○活発な企業活動 ○働く場の充実 ○全世代にわたる健康づくり事業の内容充実 ○医療機関の充実 ○公共の建物や交通におけるバリアフリーの充実 ○社会保障制度の適正な運用 ○高等教育機関や高等教育の学習機会の充実 ○将来を見通した都市計画の進展 ○公共交通の利便性 ○行財政改革の進展 ○行政の広域的連携による効率的な行政サービスの進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域医療 ○高齢福祉の充実 ○第 1 次産業の活性化 ○産業の活性化 ○雇用の安定確保 ○学校教育の充実 ○財政の健全化
	平成 25 年度調査	
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加によるまちづくり ○防災と危機管理 ○地域医療体制の確保 ○高齢者保健福祉の推進 ○社会保障の確保 ○商工観光業の振興 ○学校教育の充実 ○災害に強い都市施設の推進 ○公共交通の確保 ○財政の健全化 ○広域・外部連携の推進 	

(2) Bの項目（満足度も重要度も高い）

Bの項目については、「市民参加による防災対策」や「安心・安全な水の確保」などが新たに加わっており、これらを継続して充実させることが求められています。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
B	<ul style="list-style-type: none"> ○水産業の活気 ○高齢者への福祉サービスの充実 ○障がいのある人への福祉サービスの充実 ○子育ての相談・保育などの充実・利便性 ○公的援助を必要とする世帯への十分な支援 ○人権擁護や人権意識の啓発の進展 ○豊かな自然環境の保護 ○環境美化・環境保護の取り組みの充実 ○環境に負荷の少ないごみ処理の実施 ○適正な生活排水の処理の実施 ○適正な斎場・墓地の維持管理の実施 ○火災や災害時の対策の充実 ○交通安全への対策の充実 ○犯罪を防ぐ対策の充実 ○消費生活の安定・安全の確保 ○青少年の健全な育成のための対策の充実 ○幼児教育の環境の充実 ○教育の内容や取り組みの充実 ○学校教育施設の規模や内容の充実 ○美しいまちなみや景観づくりの進展 ○主要な道路や生活道路の充実 ○安全で安定した水道の提供 ○地域の情報化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども・子育て ○障害福祉 ○防災・危機管理 ○消防・救急体制 ○自然環境
	平成 25 年度調査	
	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加による防災対策 ○消防・救急体制の充実 ○防犯対策の推進 ○交通安全対策の推進 ○障がい者福祉の推進 ○子育て支援の推進 ○安心・安全な水の確保 	

(3) Cの項目（満足度も重要度も低い）

Cの項目については、農業や林業関連産業の振興や「生涯スポーツの推進」、「国際交流の推進」などが平成22年度に一度外れたものの、再び加わっています。

		平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
C		<ul style="list-style-type: none"> ○農業の活気 ○鉱業の活気 ○商業施設の充実 ○スポーツ施設やスポーツ活動の内容の充実 ○芸術や文化にかかわる機会の充実 ○多様な地域・人々との交流の進展 ○国際的な交流の進展 ○文化財や文化保護施設の充実 ○多様なニーズに対応した港湾環境の整備の進展 ○公園・広場・緑地の充実 ○適正な公営住宅の整備・管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加の充実 ○道路の整備 ○計画的な土地利用
		平成 25 年度調査	
		<ul style="list-style-type: none"> ○市民相談窓口の確保 ○生活保障の確保 ○農業・関連産業の振興 ○林業・関連産業の振興 ○生涯スポーツの推進 ○国際交流の推進 ○鳥獣害対策の推進 ○都市づくりの推進 	

(4) Dの項目（満足度が高く、重要度は低い）

Dの項目については、項目名の変更や増設により項目数は増えているものの、内容には概ね変化は見られません。「水産業・関連産業の振興」については満足度が上がり重要度が下がったためDの領域となっています。

	平成 17 年度調査	平成 22 年度調査
D	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館などの施設や社会教育の内容の充実 ○伝統芸能の保護 ○市政やまちづくりへの市民の参加 ○広報・広聴のきめ細やかな実施 ○活発な地域コミュニティ活動 ○男女が平等に社会参加できる環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康づくり ○交通安全の確保 ○安全な暮らしの実現 ○コミュニティの維持・再生 ○人権尊重社会の実現 ○地球環境の保全 ○廃棄物とリサイクル ○生涯学習の推進 ○情報の活用
	<p>平成 25 年度調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報共有化の推進 ○人権尊重社会の実現 ○男女共同参画の推進 ○健康づくりの推進 ○水産業・関連産業の振興 ○未就学児への支援 ○生涯教育の推進 ○森林の公益的機能の保全 ○自然環境の保全 ○資源循環型社会の推進 ○良好な生活環境の保全 	